

「情報」入試問題研究フォーラム
資料集

「情報」入試問題研究フォーラム
準備委員会

2012年3月3日開催

まえがき

高校普通教科「情報」は、2003年に設置された。全く新しい教科が設置されるということはかつてなかったことである。それだけ、情報に関する教育の必要性が高まってきていたというべきであろう。

ところが、その教科「情報」を学んだ最初の高校卒業生が進学する2006年度大学入試において、大学入試センター科目としては取り上げない、ということが、なんと教科誕生の2003年に決まっていたのである。大学入試センターは、当然のことながら、高校側にも大学側にも意見を求めたものの、予定されている高校側での教育内容が実技・実習に重きが置かれていること、センター試験が設けられても大学側に利用の予定が見られないなどの理由から、当面見送ることとしたのであった。

実施されていない時点で、大学入試センターがセンター入試科目採用を見送るのに実技・実習に重きが置かれているからとの理由付けを行ったこと影響は計り知れないほど大きかったと言わざるを得ない。この理由付けが一人歩きを始め、高校側でも大学側でも普通教科「情報」が実技・実習主体の科目である、と受け止められてしまったからである。その結果、高校の教育現場において教科「情報」が未履修のままに卒業させていくことすら生じているのである。おりしも、マスコミは「世界史」の未履修が広がっていることを取り上げていたが、「情報」について取り上げるところは少数に留まったのである。

指導要領の見直しは10年ごとに行われ、必要な改訂を施した指導要領が施行される。2013年の指導要領改訂において、教科「情報」はかろうじて必履修科目として生き残った。その見直しの過程では高校側から必履修を外してほしいとの要望さえ出されていたのである。その要望の中にかいま見られたのは、大学入試センター科目にもならない実技・実習主体の科目を必履修にしておく必要などないではないか、という意識である。

その2013年指導要領の施行は来年に始まる。そして数年をまたず、2023年に向けた指導要領の見直しが始まる。そのときまでに、教科「情報」のあるべき姿を示して、高校側にも大学側にも認識を改めてもらう努力を重ねておかないと、必履修教科としての「情報」そのものの存続が危ぶまれる。

教科の内容を端的に示すのは、入試問題であるといつてよいだろう。教科「情報」の望ましい大学入試問題を検討し公表していくことを通して、教科「情報」の社会認識の向上を図ろうと、情報入試問題研究会を発足させることとなった。

幸い、いくつかの大学で教科「情報」を入試科目として実施してきている。また、大学入試センターでも、農業科・工業化・商業科・水産科・家庭科・看護科・情報科・福祉科の専門学科に設けられている情報に関する基礎的科目を対象として「情報関係基礎」が試験科目として実施されてきている。そこで、情報入試問題検討会の活動の第一歩として、これらの試験問題をできる限り集めて基礎資料として刊行することにしたのである。

この資料集がより多くの人から参照され、教科「情報」の内容に関する議論が繰り広げられていくことを期待する。

目次

1. まえがき／笥 捷彦	1
2. 大学入試センター	3
3. 愛知教育大学	26
4. 大阪国際大学	43
5. 神奈川大学	72
6. 尚美学園大学	95
7. 聖心女子大学	103
8. 専修大学	109
9. 千葉経済大学	122
10. 筑波学院大学	139
11. 帝京大学	149
12. 東京情報大学	159
13. 東京農工大学	179
14. 明治大学（試作問題）	193
15. 和光大学	206
16. 資料1：国際情報科学コンテスト Bebras／中野 由章	217
17. 資料2：情報入試／村井 純	231
18. あとがき／久野 靖	251

あ と が き

教科「情報」については、その発足時点からさまざまな「？」マークがついてきた。その中から重要なものをあえて3つ選ぶとすれば、第1は教科内容面でも授業実体面でも情報技術・情報科学の原理に関する内容が重視されてこなかったという点、第2は発足時の経緯や学校の体制から十分な専門性を持たない「情報」教員が授業を担当している場合も少なくないという点、そして第3は世の中全体の教科「情報」に対する(ソフトの使い方の教科であるとの)誤解とその結果としての教育現場全体における「情報」軽視、であると思う。

とくに3番目については、この教科の具体的な評価のあり方があまり議論されておらず、世の中における共通の認識も得られていないことが大きな原因の1つだといえる。たとえば数学や国語などの教科であれば、大学入試センター試験の問題が主要紙に掲載され、それを見ればどのような内容が高校まで学んで来た生徒の到達すべきレベルなのかがすぐに分かる。しかし「情報」については、到底そのような状態にないし、唯一「情報」と関連の深い出題科目であった「情報関係基礎」も大学入試センターによって見直しが行われる始末であった。

情報入試フォーラム2012はこのような状況を受けて、過去に情報入試を実施した大学関係者を中心として開催された。その目的は、関係者が一堂に会してこの問題の重要性を確認するとともに、これから一致協力して標準的な「情報」入試の水準・内容を確認して行く出発点となることだった。

本資料集もその一環として、これまで各個人がばらばらに収集するだけでまとまった記録の無かった各大学の「情報」入試の内容について、ともかくも現時点で入手できる過去問題を集め、今後の検討の土台とすることを目指して編纂された。これが将来に向けてのマイルストーンとなることを切に願っている。

最後に、本資料集の作成に当たって協力を頂いた皆様、とりわけ過去問題を快く提供下さった各大学・大学入試センター、および原稿収集・編集作業に尽力された中野由章先生(大阪電気通信大学)、辰己丈夫先生(東京農工大学)に感謝します。

久野 靖
筑波大学大学院